

砥部焼陶祖。浮穴郡上麻生村(現砥部町)出身。大洲藩の命により上原窯を築き、肥前国大村藩(現長崎県)から5人の陶工を雇い、門田金治とともに磁器の焼成に着手し、苦勞の末、磁器の試し焼きに成功した。その後、釉薬の自給に成功するなど砥部焼発展の基礎を作った。砥部町大南の上ノ山には顕彰碑が建立され、その場所は今日では「陶祖ヶ丘」と呼ばれ、砥部焼関係者の聖地とされている。

略歴

- 生年不詳 浮穴郡上麻生村に生まれる。
- 安永4(1775)年2月21日 大洲藩より磁器焼成の監督を命じられる。
- 3月16日 五本松村上原(現砥部町)に窯を築く。
- 11月 1回目の焼成、失敗。
- 安永5(1776)年12月24日 2回目の焼成、失敗。
- 安永6(1777)年10月 筑前国(現福岡県)に赴き、良質の釉薬などを入手。
- 12月10日 3回目の焼成で成功。砥部磁器の生産開始。
- 没年不詳

<関連図書>

- 砥部町教育委員会『砥部焼の歴史』 砥部焼歴史研究会 1969年
- 砥部町教育委員会『砥部焼のしおり』 砥部町商工会 1977年
- 砥部町誌編纂委員会『砥部町誌』 砥部町 1978年
- 山本典男『砥部磁器史』 里の会 1986年
- 愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年